

2025 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金 研究成果報告書概要（WEB 公開用）

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [式 和義]

学年・組・番号 [1 年 C 組 10 番]

研究課題： 早稲田大学高等学院の防災対策調査と学生の防災意識の実態調査

(英文) Survey on Disaster Prevention Measures at Waseda University High School and
Survey on Disaster Prevention Awareness Among Students at the School.

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200～400 字で記入してください)

筆者らは中学生時代も含め、通算 4 年間で早稲田大学高等学院（以下学院）で過ごしてきた。しかし、その間に防災教育を受けた記憶は少なく、避難訓練もどれも避難経路を確認するだけの簡易的なものだった。さらに、学院の備蓄倉庫の場所や備蓄内容は生徒に知らされていない。この状況から筆者らは学院の防災対策・防災教育に対して不十分ではないかと疑念を抱いたため、今回同窓会学術研究の一環として本テーマについて調査・研究することを決めた。

研究を達成するために、在校生を対象とした防災に関するアンケート調査を実施し、生徒の意識や知識の実態を把握した。また、東京大学地震研究所による災害救援ボランティア講座を受講して専門的知見を得るとともに、学院事務所の協力のもとで備蓄倉庫を見学し、備蓄品の種類や量、管理状況を調査した。これらの結果を分析し、学院の防災対策・防災教育の課題と改善案を考察する。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200～400 字で記入してください)

本研究の結果、学校の防災体制及び生徒の災害に対する知識が十分ではないことが明らかになった。アンケート調査では避難経路を正確に把握している生徒は少数で、備蓄倉庫の場所を把握している人はほとんどいなかった。また防災について興味がある人は一定数存在していたものの、学院での防災教育の機会が限られているためにその意欲が十分に生かされていない実態が判明した。備蓄倉庫の見学では、一定量の物資が備蓄されているのを確認できた一方、備蓄内容に偏りがあったり備蓄基準が実情と乖離していたりと改善点が見つかった。また、災害救援ボランティア講座を受講したことで、災害に対する専門的な知識を得るとともに、知識だけでなく実際に行動することを想定した実践的な防災教育を体験し、防災教育の重要性を強く認識した。以上の調査結果から学院の防災教育と災害備蓄に対して改善案を作成し、学院のよりよい防災対策・防災教育の実現を提唱する。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 式 和義

研究分担者 有坂 健 澤田 秀洋

担当教諭 菓子 忍

(受給額： 25000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続く)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



(上：2025. 8. 5 早稲田大学高等学院第二体育館地下1階備蓄倉庫にて著者撮影 賞味期限切れのため交換する防災セットの中身)

(左：2025. 8. 5 早稲田大学高等学院第二体育館地下1階備蓄倉庫にて著者撮影 クラッカーや防災セットが入った段ボールが収納されている様子)



(左：2025. 8. 17 墨田区本所防災館にて著者撮影 震度7相当の巨大地震疑似体験の様子)

(下：2025. 8. 23 文京区東京大学地震研究所1号館にて著者撮影 学習した三角巾による圧迫包帯止血を実際に試している様子)



(上：2025. 8. 23 文京区東京大学地震研究所1号館にて著者撮影 大人・小児・乳児の救命活動実習演習で用いた模型と訓練用AED)



以上